



## 第 5 章 地域農業の振興方向

---



# 中部地域

## 地域の特色や課題

中部地域は、県のほぼ中央に位置し、3市2町1村から構成されています。大消費地の東京から100km圏という恵まれた立地条件の下、安全・安心な農畜産物を生産・供給しています。

管内では、全域で栽培されている野菜、平坦部の米麦、赤城山麓や榛名山東麓等の畜産やこんにゃく等、地域特性を生かした生産が行われ、農業産出額の割合では、畜産物が5割強、野菜が3割と2部門で全体の8割強を占めています。

集落営農組織を中心に法人化や経営規模の拡大が進む一方で、高齢化や労働力不足が深刻化しており、管内農業の持続的な発展を図るためには、地域農業を担う力強い経営体の育成や生産基盤の強化が求められています。

農村地域における集落機能や多面的機能の維持・発揮を図るため、地域資源の活用、協働活動、都市との交流等、地域の活性化に向けた多様な取組を推進する必要があります。

## 基本方向

### ● 揺るぎない足腰の強い中部農業の確立

- 地域農業を支える新たな担い手の確保・育成、足腰の強い経営体の育成に取り組むとともに、実質化された「人・農地プラン」の実現に向け、農地整備と一体的に担い手への農地集積・集約化を進めるなど、意欲ある担い手が持てる力を発揮できる環境整備に取り組みます。
- 土地利用型作物では、引き続き、大規模化、省力・低コスト化を推進し、園芸作物では環境制御技術や栄養診断等による高品質多収技術の高度化を図るなど、産地の競争力強化に取り組みます。
- 地域の基幹である畜産では、畜産農家と地域の畜産関係者が連携・結集した畜産クラスターの構築を推進し、畜産経営の収益性を地域全体で向上させるための取組を支援するとともに、ICT等の活用による省力化や経営の効率化を推進します。
- 水田農業では、経営基盤の強化を図るため、集落営農法人等による米麦の高品質安定生産と複合化による経営改善を支援します。さらに、コントラクターの育成強化による耕畜連携と水田の高度利用、スマート農業の導入等を推進します。

### ● 生き生きと躍動する農村の構築

- 地域資源を活用した6次産業化や起業等、女性農業者の積極的な活動を支援するとともに、新規参入者や地域農業を担う次世代リーダーを育成するなど、意欲ある多様な担い手の活躍を推進します。
- 担い手の経営発展や地域の多様なニーズに対応した生産基盤整備を推進するとともに、老朽化した農業水利施設の長寿命化、防災重点ため池の豪雨・地震対策等を推進します。
- 地域の「協働」による農地維持・資源向上活動や、地域集落が一体となった鳥獣被害対策等により、農村環境の適切な保安全管理を推進します。
- 農村地域の活性化を図るため、多様な地域資源を活用し、グリーン・ツーリズムや農泊等による都市と農村の交流や観光との連携を推進します。

### ● 地域農畜産物の需要拡大と安全・安心の確保

- 地域農畜産物の需要拡大を図るため、効果的な情報発信とイメージアップ、地域におけるブランド化に向けた取組を推進します。
- 経営全般の質的向上と農薬危害や農作業事故等の経営リスク軽減を図るため、GAPの手法導入と普及・定着を推進します。
- 家畜疾病対策の強化を図るため、飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、特定家畜伝染病発生時の防疫措置に適切に対応できるよう、市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。

# 地域重点プロジェクト

## A 集落営農法人等の体質強化

中部地域では米麦二毛作を中心とした水田農業が集落営農法人等により行なわれていますが、構成員の高齢化や後継者不足に加え、混住化による新たな問題が生じるなど、集落営農法人が抱える課題は山積しています。

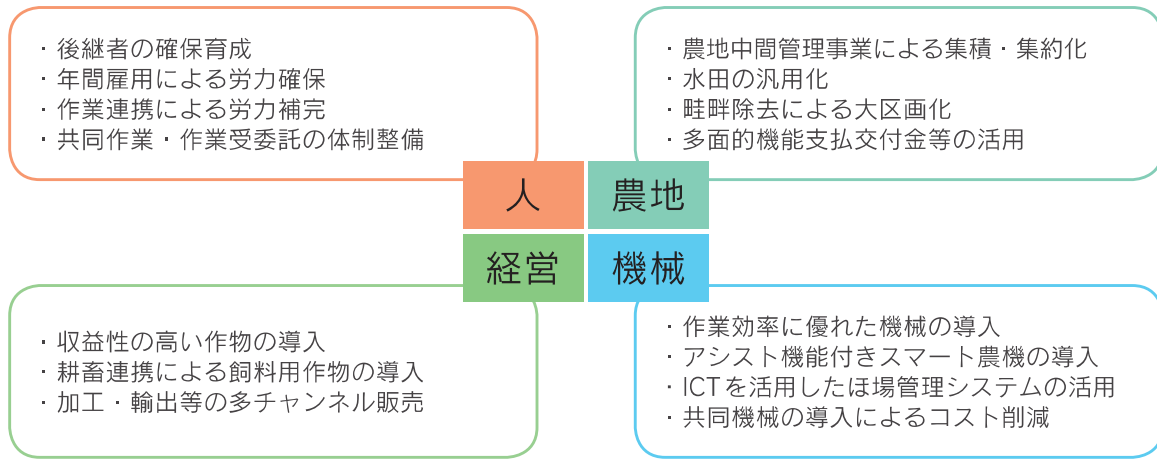
そこで、地域農業の持続的な維持・発展に向けて、収益性の高い作物の導入や省力化等を推進し、集落営農法人等の運営の円滑化と経営強化の取組を総合的に支援します。

### [ 推進内容 ]

- 中長期ビジョンによる法人の体質強化
- 組織活動支援と法人間連携の推進
- スマート農業の導入による省力化の推進
- 農地中間管理事業等を活用した農地の集積・集約化の推進
- 収益性の高い作物導入による経営安定の推進



稲刈り風景



集落営農法人等の体質強化に向けた中長期ビジョンのモデル

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元(基準年)	R7(目標年)
体質強化に取り組んだ集落営農法人数	法人	0	10
飼料作物(飼料イネ・飼料用麦・飼料用トウモロコシ)の作業受託面積	ha	275	310

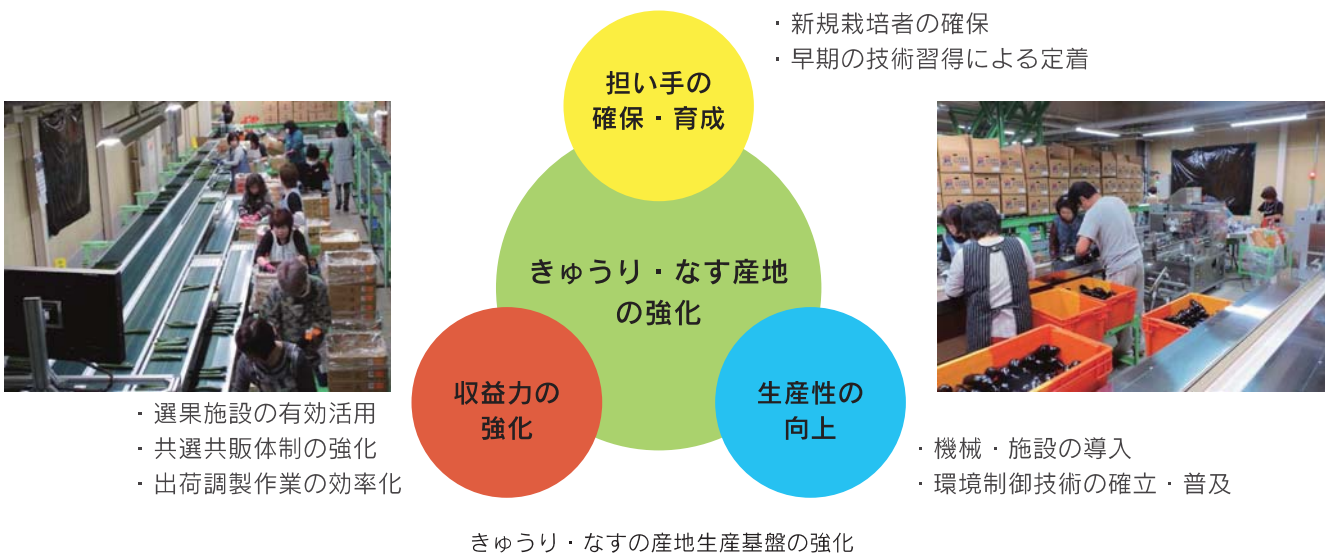
## B きゅうり・なす産地の強化

きゅうり、なすは、中部地域の主要な野菜品目として産地が形成されています。県内でいち早く2カ所（JA前橋市、JA佐波伊勢崎）の選果施設が整備されるとともに、生産施設や新技術が積極的に導入されるなど、関係機関が連携して産地の競争力強化を支援してきました。

そこで、産地生産基盤を有効に活用し、更なる産地振興を図るため、担い手の確保・育成、生産性の向上及び収益力の強化を総合的に支援します。

### [ 推進内容 ]

- 産地の持続的な発展に向けた担い手の確保・育成
- 新規栽培者の確保と早期の技術習得による定着支援
- 生産性向上を図る機械・施設の整備支援や環境制御技術の確立・普及
- 選果施設の有効活用や共選共販体制の強化に向けた取組の推進
- 出荷調製作業の効率化・品質向上に向けた取組の支援



### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
きゅうり出荷量	t	12,700	14,000
なす出荷量	t	5,327	6,000



# 西部地域

## 地域の特色や課題

西部地域は県南西部の4市3町2村からなり、河川沿いの平坦地域から山間地域まで地形変化に富んでいます。管内の農地は、標高60mの平地から800mの山間地まで分布し、それぞれの地域の自然環境の特色を生かして、野菜、果樹、花き、米麦、こんにゃく、畜産等、多品目にわたる多彩な農業が展開されています。

榛名山南麓から安中市方面にかけては、なし、うめ等を中心に県内有数の果樹産地が形成されています。また、安中市と富岡市にまたがる松義台地を中心とした地域は大規模な畑地となっており、こんにゃくや露地野菜が生産されています。

一方、中山間地域では、耕地面積が狭く、傾斜地が多いなど農業生産条件が不利な農地が多いため、耕作放棄地の増加により生産基盤の脆弱化が進行しています。

地域の農業を支える多様な担い手の確保と農地の集積・集約化、産地の活性化、地域資源を生かした中山間地域の振興、鳥獣被害対策の強化等が課題となっています。

## 基本方向

### ● 地域農業を担う多様な担い手の確保・育成

- ニューノーマルに対応した多様な担い手を確保・育成するとともに、就農後の経営安定・定着を図ります。
- 認定農業者等の農業技術や経営管理能力の向上を図り、地域農業の牽引役となる人材を育成します。
- 農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積・集約化を推進します。
- 農福連携等を通じて、労働力不足の解消を図ります。

### ● 地域の特徴を生かした収益性の高い農業

- なし、うめ等の果樹産地において、改植推進、県育成品種の導入、新たな技術の導入・拡大により、生産性の向上を図ります。
- 野菜やこんにゃく栽培におけるICT等を活用したスマート農業の普及を推進します。
- 水田フル活用による飼料イネ、飼料用米、麦類の安定生産、売れる米づくり・麦づくりを推進します。

### ● 地域の特徴を生かした農村地域の活性化

- 地域の歴史的・文化的背景を持つ多彩な農畜産物の生産や6次産業化を振興します。
- 地域農畜産物の「強み」を生かした魅力発信や加工品等による高付加価値化を推進するとともに、国内外への販路拡大の取組を支援します。
- 地域の農畜産物や農村文化、農村景観等の魅力を情報発信し、地域に継続的に関わる関係人口を増加させ、農村地域の活性化を図ります。
- 多面的機能支払交付金や中山間地等直接支払交付金を活用した地域協働活動の推進により、耕作放棄地の解消や農業用水路の保全管理を支援します。

### ● 農業生産基盤の整備・保全・管理

- 農業の生産基盤である農地と基幹的水利施設の保全対策を推進します。
- 関係市町村と連携して、防災重点ため池、地すべり防止、老朽化した管水路等の防災・減災対策を進めます。
- 野生鳥獣被害対策は、官民共創による体制づくりを推進し、侵入防止柵の設置や有害鳥獣捕獲、指導者の育成等を支援します。

### ● 消費者視点の安全・安心な農畜産物の生産・提供

- 持続可能な農業生産、信頼される産地づくりに向けて、GAPの実践による安全性の確保、エコファーマーの育成、特別栽培農産物の取組を推進します。
- 堆肥を有効に活用した土づくりや化学肥料の適正施肥、農薬の安全かつ適正な使用により、安全・安心な農産物の生産を推進します。
- 酪農では、飼料自給率の向上を目指し、飼料の生産拡大と利用促進を図ります。
- 飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。

# 地域重点プロジェクト

## A こんにゃく栽培を中心とした松義台地等の農業振興

富岡市と安中市にまたがる松義台地周辺の農地は、基盤整備の実施により、こんにゃくを中心とした大規模で多様な畑作農業が展開されています。

本地域における持続性のある農業の維持・発展のためには、担い手への更なる農地集積の推進や、土地利用型農業を下支えする経営面や生産面での営農支援が求められています。

そこで、基幹作物であるこんにゃくの栽培技術の向上、輪作体系の構築、担い手への農地集積・集約化、スマート農業の導入等、生産性向上や経営改善に向けた取組を総合的に支援します。

### [ 推進内容 ]

- 地域の話合いによる担い手への農地集積・集約の推進
- こんにゃくの生産組織支援等による担い手の確保・育成、労働力確保
- こんにゃくの安定生産に向けた栽培・経営支援
- 栽培に適した農業用排水路等の改善、整備の検討・提案



整備された松義台地



こんにゃく栽培研修会



地域の生産者による話合い

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元(基準年)	R7(目標年)
松義台地の担い手への農地集積	ha	85.6	106
こんにゃく越冬栽培面積	ha	27	39



## B 果樹産地（なし、うめ等）の活性化

西部地域は、なし、うめ等を栽培する県内一の果樹産地ですが、担い手の高齢化、果樹の老木化等により産地の維持が難しくなっています。さらに、クビアカツヤカミキリの発生が確認されたことによる果樹園管理の徹底、温暖化に対応した品種や技術の導入が求められています。

そこで、新たな担い手の確保・育成、改植推進、環境に優しい持続可能な農業の推進等により、産地の活性化を図ります。また、大学、生産者や商工業者等と連携した産地の認知度やイメージの向上による販売力強化を図ります。

### [ 推進内容 ]

- 新たな担い手の確保・育成と栽培技術の向上支援
- 産地維持のための改植推進と遊休園地の発生抑制
- 新品種や新技術の導入・拡大
- 果樹産地の情報発信等による販売力強化



うめ県育成品種「群馬U6号」

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
果樹（なし、うめ等）改植面積	ha	4.1	10.3
ナシハダニ天敵導入農家数	戸	11	35

## C いちご産地活性化

西部管内でのいちごの作付面積は約21haと県全体の約4割を占め、県育成品種「やよいひめ」の導入率は9割程度となっています。一方で、生産者の高齢化等に伴う生産量の減少、品種特性を生かした高品質安定生産が課題となっています。

近年、若い就農希望者も徐々に増えており、直売や観光農園等の取組も広がっています。

そこで、多様な経営を視野に入れた高品質安定生産への取組の支援を行い、産地の活性化を図ります。

### [ 推進内容 ]

- いちご新規生産者の確保・育成
- ICT等の技術導入による生産性・品質向上
- IPM技術導入による環境に優しい農業への取組
- GAP導入による経営改善



個別巡回指導

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
いちご10aあたり収量（2JA）	kg	4,285	4,500
IPM技術導入農家戸数（全域）	戸	57	76



# 吾妻地域

## ● 地域の特徴や課題 ●

吾妻地域では、平成30年の耕地面積が、水田面積1,156haに対して、畑面積7,737haであり、畑作が中心となっています。また、全域が中山間地帯で、標高300~1,400mの間に耕地が分布しており、標高差を生かした特徴ある農業が展開されています。

中之条町、高山村、東吾妻町では、稲作と野菜等の複合経営が主体であり、こんにゃく、夏秋なす、キク類、りんご等の産地化が図られています。また、養豚や採卵鶏の大規模経営が行われています。

嬭恋村や長野原町の高原地帯では、キャベツ、はくさい等の大規模野菜経営、酪農経営が営まれています。

農家戸数や就業人口の減少、労働力不足、高齢化が進み、担い手の確保や経営基盤の強化、農畜産物の産地強化等が求められています。また、野生鳥獣による農作物被害は依然として深刻な状況であり、効果が実感できる対策が必要となっています。

## 基本方向

### ● 地域農業を支える多様な担い手確保と経営基盤の強化

- 新規就農者の受入体制を強化し、定着と経営者意識の醸成を図るとともに、栽培技術の習得を支援します。
- 農業者組織の育成や経営基盤強化に向けた取組を支援するとともに、農作業受委託を促進します。
- 地域リーダー、農業青年、女性農業者の組織活動を支援するとともに、男女共同参画を推進します。
- 農地中間管理事業の活用や生産基盤の整備を契機とした担い手への農地集積・集約化を推進し、「人・農地プラン」の実質化に向けた取組を支援します。

### ● 地域の特性を生かした農産物の産地強化と競争力のある農業生産

- キャベツ、はくさい等の高原野菜、夏秋なす、ズッキーニ、さやいんげん、りんご、キク類、こんにやく等の地域特産物の安定生産と高品質化に向けた取組を支援し、産地強化を図ります。
- おいしい米づくりや品質向上に向けた取組を支援します。
- 資源循環を目指した環境保全型農業を推進するとともに、表土流亡軽減対策、GAP導入を推進します。
- 農産物直売所や観光農園の運営、地域特産物を活用した農産物加工品の開発や販売等を支援するとともに、消費者に対するPR活動を行います。
- ハツ場ダム周辺地域の観光資源活用による農業と地域の活性化に向けた取組を支援します。

### ● 競争力に優れた収益性の高い畜産経営の確立と家畜伝染病の発生予防

- 畜産経営の安定化に向けて、生産性の高い飼養管理と飼料自給率の向上を図ります。
- 畜産環境対策に取り組み、地域と調和した畜産経営を支援します。
- 飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。

### ● 魅力ある農村の維持・発展

- 多面的機能の発揮のため、地域の共同活動による農地・水路等の維持・保全を支援します。
- 農地や農業水利施設等の適切な保全管理を進め、生産基盤の保全・整備を図ります。
- 耕作放棄地解消関連事業等を活用し、地域の実情に応じた耕作放棄地の解消と有効活用に向けた取組を支援します。
- 野生鳥獣による農作物への被害軽減のため、官民共創コミュニティによる「捕る」「守る」「知る」対策を総合的に推進し、地域が一体となった取組を支援します。

# 地域重点プロジェクト

## A あがつまの農業を元気にする担い手確保と地域農業の構築

中山間地域である中之条町、東吾妻町、高山村では、農業者の高齢化や後継者不足が進み、担い手の確保・育成が喫緊の課題となっていることから、町村や関係機関と連携して、新規就農者の受入体制を整備・強化します。また、集落営農組織等に対する活動支援や、農業水利施設等の保全対策に取り組み、持続性のある地域農業の構築を図ります。

### [ 推進内容 ]

- 新規就農者の育成支援、受入体制の整備支援
- 集落営農組織や集落における中心経営体の活動強化支援
- 農業水利施設等の計画的な保全対策推進
  - 新規就農者の販売金額
    - モデル1 宿根草類 施設栽培13a、露地50a  
就農5年目で500万円／就農時1人／戸を達成
    - モデル2 スプレーマム 施設栽培30a、露地45a  
就農5年目で600万円／就農時1人／戸を達成

#### ① 新規就農者への支援

若い農業の担い手を確保



六合の花 セダム

#### ② 集落営農組織等への支援

集落で中心となる組織支援強化



「(農) さくや姫」の水稻収穫風景

#### ③ 農業用水等施設整備支援

農業用水の安定供給



美野原用水の水路補修



吾妻郡東部の特徴を活かし集落で地域の農業を強化

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元(基準年)	R7(目標年)
受入協議会活動による新規就農者数(累計)	人	10	21
集落営農組織の栽培面積・作業受託面積	ha	51	56.6

## B 全国に誇れる高原野菜の産地力強化

キャベツ、はくさい、レタス等の高原野菜の生産・出荷機能の強化やニューノーマルに対応した労働力の確保を図るとともに、表土流亡を軽減する農地保全や環境保全型農業の取組を支援します。また、シカ等による農作物への被害軽減に向けて、官民共創による野生鳥獣被害防止対策に取り組みます。

### [ 推進内容 ]

- 高原野菜の緑肥を組み合わせた輪作体系による生産安定
- 苗移植機等導入支援による労働力の低減と規模拡大
- 緑肥やグリーンベルト、沈砂池による傾斜地ほ場の表土流亡の軽減
- 野生鳥獣による農作物被害額の軽減支援
  - ・ 嬭恋村(夏秋)キャベツ販売金額 4,000万円(7ha/戸)



表土流亡軽減対策としてのグリーンベルト（嬭恋村）

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
吾妻西部の高原野菜の出荷量	万ケース	1,932	2,030
吾妻西部の野生鳥獣による農作物被害額	千円	170,805	95,000*

※平成30年度実績値より設定

## C 北軽井沢応桑地区における収益性の高い酪農経営の確立

労働力不足等により、飼育環境の改善や飼養頭数の増加が容易に出来ない状況であることから、自給飼料生産や飼料の調製等の見直しによる労働力時間の削減に向けた取組を推進し、規模拡大につなげ、酪農経営の安定化を図ります。

### [ 推進内容 ]

- 育成牧場を活用した後継牛確保による増頭
- 飼養管理方法の見直しによる高品質生乳生産の支援
- 混合飼料増産による飼料費のコスト低減への支援
  - ・ フリーストール・ミルクパーラー 成牛120頭 農業所得 1,200万円
  - ・ 繋ぎ式・パイプライン 成牛 50頭 農業所得 600万円



乳牛の放牧（浅間牧場）

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
1戸当たりの成牛頭数（24ヶ月以上）	頭	66	69
総生菌数10万以下の農家	%	36	60
TMRセンター利用農家の飼養頭数	頭	576	1,452



# 利根沼田地域

## ● 地域の特色や課題 ●

利根沼田地域は、県北部に位置し、1市1町3村で構成されています。赤城山北西部の赤城高原や片品高原では、標高差や夏季冷涼な気象条件等を生かし、レタス、トマト、ほうれんそう等の夏秋野菜生産や、酪農、肉用牛、こんにゃく等の大規模経営が行われています。

関越自動車道や上越新幹線等の利便性の高い交通網が整備され、自然環境や観光資源に恵まれていることから、りんご、ぶどう、おうとう等の観光果樹園が全域で営まれています。また、ブランド米の生産や首都圏への野菜の供給基地としての役割を担うなど、農業は地域の基幹産業となっています。

生産者の減少や高齢化による担い手不足、農地集積の促進、耕作放棄地の増加、野生鳥獣による農作物被害の深刻化が課題となっています。

## 基本方向

### ● 地域農業を支える多様な担い手の確保・育成

- 次世代の地域農業を担う新規就農者や青年農業者、若い女性農業者等の多様な担い手の確保・育成を図ります。
- 安定した農業経営を確立するため、認定農業者等の意欲ある担い手に対して、経営改善の支援や農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化を進めます。

### ● 地域特性を生かしたブランド産地の育成

- 夏季の冷涼な気象条件を生かした雨よけトマトやレタス栽培等、夏秋野菜の高品質安定生産に向けた取組を支援します。
- ブランド米生産組織の連携を強化し、売れるおいしい米づくりの取組を推進し、ブランド米の振興や農家所得の向上を支援します。
- 関係機関と連携して、こんにやく農家の経営規模の拡大、畜産経営の収益性向上に向けた取組を支援します。

### ● 観光農業と6次産業化の推進

- 農産物の輸出促進や新品種の導入によりブランド力強化を図るとともに、市町村、JA、観光団体等と連携し、観光農業を推進します。
- 農業者、農産物加工組織、農村女性起業等による地域農産物を活用した新たな加工品の開発、地域特産品の拡充等により、地産地消や6次産業化を推進します。

### ● 安全・安心な農業生産の推進

- 効率的かつ省力的な農産物の安定生産に向けて、スマート農業やGAPの導入・普及を推進します。
- 信頼される農産物の生産に向けて、農薬の適正使用の推進や放射性物質対策の徹底を図ります。
- 飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、特定家畜伝染病の発生等に備え、市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。

### ● 農地の有効利用と農業生産基盤の保全・整備

- 農業生産基盤整備事業と農地中間管理事業が連携し、担い手が参入できる環境を整え、担い手の育成と耕作放棄地の発生防止に努めます。
- 地域コミュニティによる農村の維持や耕作放棄地発生の抑制、農業水利施設の長寿命化や重点ため池等の防災・減災対策に取り組みます。
- 野生鳥獣による農作物被害を軽減するため、侵入防止柵の整備や地域ぐるみの被害防止活動を支援します。

# 地域重点プロジェクト

## A トマト・レタスを核とした競争力の高い野菜産地の育成

利根沼田地域は、中山間地から準高冷地に立地する生産基盤を生かした野菜生産が行われています。特に、雨よけトマト、レタスの大規模栽培が行われており、品質が高いことから市場からの信頼も厚い産地となっています。また、輸出促進による販路拡大等、販売チャネルの多角化の取組も始まっています。

しかしながら、生産者の高齢化、生産者間の技術格差、生理障害や病害虫の発生等の課題が多いことから、競争力の高い野菜産地の育成に向けて、継続的に支援します。

### [ 推進内容 ]

- 生産基盤強化へ向けた園芸施設の導入支援
- 省力化に向けた機械・装置等の導入支援
- 新規栽培者の定着支援、省力化技術の普及と向上支援
- 高品質安定生産に向けた栽培技術の普及促進
- スマート農業等の新技術やGAP手法を用いた栽培管理の導入支援



トマト選果施設での共選出荷



照光機を利用した朝採りレタスの収穫

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元(基準年)	R7(目標年)
トマト販売出荷量 (JA利根沼田)	千ケース	1,630	1,700
レタス販売出荷量 (JA利根沼田)	千ケース	2,376	2,500



## B 片品村牛の平地区における農地集積促進対策

生産者の高齢化の進行に加えて、条件不利農地が多いことから、牛の平地区における農地約15haのうち、約9割が遊休農地化しています。

そこで、関係機関で形成された官民共創コミュニティにより、生産基盤整備による優良農地と農業用水の確保、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化、トマトや白小豆等の導入を行い、地域農業を支える担い手を育成し、中山間地域の農業振興を図ります。

### [ 推進内容 ]

- 農業用水整備と区画整理による優良農地の確保と遊休農地の解消
- 担い手への農地集積・集約化の推進
- 地域農業を支える担い手や新規就農者の確保・育成



牛の平地区 営農検討会



牛の平地区 担い手参画協定締結式



基盤整備を契機とした担い手への農地集積・集約化

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元(基準年)	R7(目標年)
牛の平地区における担い手への農地集積面積	ha	0	14.6
牛の平地区における担い手数	人	1	7



## 東部地域

### ● 地域の特徴や課題 ●

東部地域は県南東部に位置し、太田、桐生・みどり、邑楽館林の3地区（4市5町）で構成されます。一部に中山間地域を含みますが、主に平坦地域で、米麦を中心に都市近郊の立地条件を生かした多彩な農業が営まれています。

野菜は、施設・露地栽培のいずれも盛んであり、特にきゅうり、なすは全国有数の産地となっています。また、地域特産物である、やまといも、小玉すいか、にがうり等も高い評価を得ています。

畜産は、肉牛や養豚の大規模経営が見られ、中でも養豚は県産出額の3分の1を占める産地となっています。鉢物の花き（シクラメン、カーネーション、アジサイ）や果樹（なし、ぶどう）も県内有数の産地として知られています。

生産者の高齢化や減少、耕作放棄地の増加、商工業用地としての農地需要も多く、生産基盤の脆弱化が懸念されています。

地域農業を支える担い手の確保・育成、スマート農業やDXの推進、農村協働力（地域の絆）の深化による農地・農業用施設の保全管理等、農業生産基盤を保全・強化することが必要となっています。

## 基本方向

### ● 担い手確保・育成と生産基盤の保全・強化

- 新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした地方移住希望者等をはじめとする多様な担い手の確保・育成に向けて、関係機関との連携により、就農受入体制を強化します。
- 認定新規就農者や認定農業者に関する各種制度等を活用し、担い手に応じたきめ細やかな経営支援に取り組みます。
- 「人・農地プラン」の実質化への取組を支援するとともに、農業生産基盤の整備により、担い手への農地集積・集約化を進めます。

### ● 地域特性を生かした土地利用型農業の推進

- 米麦の生産性と品質向上を図るとともに、生産基盤の条件や実需者のニーズ等を踏まえ、加工用米・飼料イネ等への転換と生産性向上の取組を支援します。
- 自給飼料の品質向上と安定供給を図るため、生産者組織等の活動を支援します。

### ● 葉菜・果菜類の産地競争力の強化

- 産地に適した施設野菜と米麦との複合経営の確立に向けて、環境制御技術等の確立・普及を推進し、産地の維持・発展を図ります。
- 夏秋なす産地の更なる発展に向けて、栽培技術の普及・高位平準化を図るとともに、新規栽培者の定着を支援します。
- 安全・安心な農畜産物生産を進めるため、生産履歴記帳とGAPへの取組を支援します。

### ● 花き・果樹産地の維持・発展とブランドの確立

- 省力化・高品質栽培技術の導入、担い手の確保・育成を進め、花き・果樹産地の維持・発展とブランド化を図ります。

### ● 農業・農村環境の維持と多面的機能の保全

- 野生鳥獣への効果的な被害対策を効率的に進めるため、官民共創による地域と関係機関が一体となった取組を推進します。
- 飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、市町や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。
- 農業・農村の有する多面的機能を保全するため、農村協働力（地域の絆）による農地や水路等の維持・保全に向けた取組を支援します。
- 安全・安心な農村づくりに向けて、ため池等の農業水利施設における防災・減災対策に取り組めます。

# 地域重点プロジェクト

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

参考資料

## A ニューノーマルに対応した加工業務用野菜産地化の推進

コロナ禍での食生活の変化等による中食・内食の増加に伴い、加工・業務用野菜の需要が拡大しています。

県内でも多くの食品産業が集積する東部地域においては、農地を大区画化・汎用化する生産基盤整備とあわせて、地元食品製造業と連携した加工・業務用野菜の生産が急速に広がっています。

そこで、加工・業務用野菜の産地化に向けて、生産から販売までの一貫した支援を強化し、省力・効率的な生産技術等の導入を推進することで、収益性の向上や米麦との複合経営化を推進します。

### [ 推進内容 ]

- 担い手への農地集積・集約化の推進
- 加工業務用野菜（キャベツ、レタス等）の生産安定や規模拡大
- 高収益作物の導入・拡大に対応したほ場整備の推進
- スマート農業等の活用による省力・低コスト化と品質向上



キャベツ自動収穫機による収穫風景

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
担い手への農地集積率	%	55.5	66
契約栽培面積	ha	72	81
20a以上の区画整理整備済み耕地面積	ha	2,936	3,070

## B 地域資源を生かした中山間地域の振興

中山間地域は平坦地と比較して不利な営農条件下にありますが、桐生・みどり地区では、酒米栽培を通じた耕作放棄地の解消や、農商工連携による日本酒づくり等の官民共創による取組が行われています。

そこで、中山間地域の農業・農村を活性化するため、新規作物導入による耕作放棄地の解消、商工業・観光・福祉等との連携による地域資源を生かした新たな特産品づくり、地域内外からの人材受入等の取組を支援します。

### [ 推進内容 ]

- 耕作放棄地対策として地域特性を生かした新規作物の導入
- 地域特産物を活用した加工品の開発
- 官民共創による野生鳥獣被害対策の推進
- 農村協働力(地域の絆)の深化による農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮



農福連携による酒米の収穫風景

### [ 数値目標 ]

目標指標	単位	R元(基準年)	R7(目標年)
耕作放棄地解消面積	ha	2.9	5.9
新規作物導入数(累計)	作物	6	9
農産加工品創出数(累計)	品目	4	7
野生鳥獣による農作物被害額	千円	13,591	8,430*

※平成30年度実績値より設定